

第170回 関西広域連合委員会

日時：令和6年9月28日（土）

場所：大阪府立国際会議場 10階

会議室1004～1007

開会 16時30分

○三日月広域連合長 第170回の関西広域連合委員会を始めさせていただきます。

第170回という節目を迎えました。2010年発足以来、14年目ということですし、防災力、産業力、文化力、広域行政力を高めながら関西広域連合も進化させていきたいと思っております。折しも大阪・関西万博も開催されますし、多くの注目を集められるこの機に、ぜひ皆さん、力を合わせて取組を推進していきたいと思います。

また、自由民主党では、石破さんが総裁になられ、関西広域連合がかねてから訴えております防災省、防災庁を設置しようということについても、公約の中に入れておられるようですので、そういったことごとにつきましても、更に発信を強化していければと考えているところでございます。

それでは、次第に沿って進めてまいります。まずは、「大阪・関西万博 関西パビリオンの取組状況について」を議題とし、こちらは大阪・関西万博 関西パビリオンの企画委員会として開催いたしますので、福井県、三重県にもオンラインで御参加いただいております。後ほどそれぞれの府県から取組状況についても御説明、御紹介いただくことにもなりますので、よろしく御準備をお願いいたします。

まずは、本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料1を御覧ください。大阪・関西万博、関西パビリオンの取組状況について御報告をいたします。別紙1は現在の関西パビリオンの現場の写真でございます。幸い順調に建設工事が進みまして、9月末に概ねの竣工を迎える予定でございます。こちらは9月中旬の状況ではございますが、必要な各県の隔壁、それから真

ん中に造りますセンターサークル部分のLEDパネルを準備するところも含めて、一応の完成を見たところでございます。この図面は、右肩の写真のとおり、ちょうどセンターの入口から入ったところから奥を見た光景でございます。このように高さはある程度、階段がございます。テント構造の中で上までぐんと跳ね上がっているようなパビリオンが現場においてでき上がったところでございます。なお、切り絵等につきましては、全ての搬入が終わる頃を一つのめどに、外観の完成として切り絵のあしらいなどをやってまいりますので、全ての完成はやはり来年の2月頃というようなところでございます。

次ページでございますが、バックヤードの状況をお示ししております。三角形のバックヤードを3階建てで造っているところでございます。3階でございますスタッフルーム、ここで我々、現場で管理をする者、それからアテンダントのメンバー、それから各府県のメンバーが集まり、場合によっては会議をし、昼食を取るというような場にする予定でございます。見た目は大きく見えますが、かなりまだ狭い部分がございますので、ここの使い方につきましては、これから今後じっくりと各府県、それから催事に出てこられる皆さんに説明をし、かつ協議をしてまいりたいと考えておるところでございます。

その次のページからは、大阪・関西万博における主な状況についての御報告です。別紙2を御覧ください。まずは、海外の各パビリオンの状況でございます。独自パビリオンが52か国、そして協会用意の単独館が16か国、協会が準備された共同館が89か国という形になってございまして、ようやく我々の関西パビリオンが右肩上のあたりになります。我々のパビリオンから各国へどのようにつながるのかというようなことが見えてきた状況でございます。このようなところで今進んでおりまして、工事も比較的順調に進んでいるのではないかと考えております。

さて、その次のページでございますが、主なトピックスでございます。大屋根のリングが一つになりましたと、これは8月21日に1周2キロが完成しましたというもの

でございます。9月13日には記念式典が開催されまして、広域連合長、それから吉村委員、横山委員も博覧会協会の副会長として御出席をいただいております。現在、現場ではエレベーターやエスカレーターの設置工事が進んでおるところでございます。最終的には屋上緑化の工事も実施されると聞いておるところでございます。

さて、その次でございますが、会期中の大阪・関西万博におけるイベントカレンダーが発表されました。これは次ページにつけてございますが、大阪・関西万博の各ホール、あるいはメッセにおきまして実施される行事を記載しております。後ほどお時間あるときに御覧になっていただければと思いますが、イベントは既に480件というところがございます。③でございますが、9月25日から既に超早割の特別抽選が始まっております。パビリオンであつたり、イベント観覧の申込みが実施されております。超早割としましては、10月6日の日曜日までが受付期間となっております。こちらに記載のとおり、超早割1日券の購入者を対象に抽選が始まりますが、ある意味ではこれから何日に参加しようか、こういったことがどんどん皆さんの間で話として出てくるのではないかと考えておるところでございます。

以上を含めまして、別添も含めて、今現在の大阪・関西万博における主なインフォメーション、それから我が関西パビリオンの状況について、御報告をいたしました。

以上でございます。

○三日月広域連合長 全体の準備状況は以上でございますが、せっかくの機会ですので、それぞれの府県の準備状況、またパビリオンの紹介などもしようということでございます。資料をつけていただいております。順番に説明をしたいと思っております。

まず最初、滋賀県の取組は、資料のとおりでございますが、3つ申し上げます。1つは、パビリオンについては「Mother Lake～びわ湖とともに脈々と～」ということで、ちょっと小さな文字で書いているのですが、キネティック・ライト・ビジョンという、四季の映像と合わせて450個光る球体が色を変えながら上下に浮遊し、光の波をダイナミックに展開と、私も見たことがないのでどんなのか分から

ないのですが、世界初の空間演出を、この狭い空間ですが、やってみようということがございます。また、ブース展示の造作には、滋賀県産品、ヨシとかいろいろなものを活用できたらいいなと。

2つ目は、2枚目ですが、子どもたちの会場への招待をやろうということで、その準備をしています。教育旅行での御参加以外にも個人、家庭からの申込みにも対応していこうと。

最後、3つ目は、やはり機運醸成が大事だということで、左下ですけれども、11月2日、開幕半年前の滋賀県でのPRイベントを開催いたしますし、その前日、マザーレイククルーズということで、関西2府4県のテレビ局のアナウンサーの皆さんにも御参加いただいて、PRイベントを開催しながら関西の歴史文化首都としてのパワーを併せて発信しようという、そういう企画も用意されているところでございますので、首都のあった関西、歴史文化首都としての力というのは、万博後のレガシーとしても、PRコンテンツとしても大変重要じゃないかと考えているところでございますので、ぜひまた皆さんと一緒に取組を強化していきたいと思っております。

以上でございます。大体こんな尺でそれぞれ御紹介をいただければありがたいなと思っているところでございます。

では京都府さん、お願いします。

○西脇副広域連合長     それでは、9ページを御覧いただきたいと思います。オール京都で構成している大阪・関西万博きょうと推進委員会の若手に全て任せて、デザインもやっていただいています。特に土日祝日には、来場者と出展者が交流できる実演やワークショップ、ブースと府内各地で行っていますイベント会場を結んだ交流イベントなどを予定しております。京都ブースの特徴は、一定期間ごとに展示を入れ替えながら、出展者とともに作っていくということをコンセプトにしております。オンリーワンの空間にしたいと思っております。今年4月に、先ほど言いました大阪・関西万博きょうと推進委員会から出展コンテンツの公募をしましたところ、145件の応

募がございまして、9ページの黄金の茶室は「お茶の京都博」で使ったもので、久御山町でお茶の文化とものづくりの文化を融合させたものということで、応募いただいた提案の1つでございます。10月12日には京都駅前で開催半年前の機運醸成イベントを開催する予定で、そのときには、その他の一部の出展コンテンツも含めて、空間イメージをこれよりも更に進化した形で発表したいと思っております。

次のページに、展示の分野、期間、展示テーマというものを記載しております。まだまだ熟度が低いものもございすけれども、開幕に向けまして内容を更にブラッシュアップしていきたいと思います。

以上でございますよろしくお願い致します。

○三日月広域連合長      ありがとうございます。

続いては、兵庫県さん。

○服部副委員      兵庫県でございます。11ページをお願いいたします。兵庫県では、万博会場のみならず、県内のほかの2会場を含めた3つの拠点で事業展開をしてまいります予定でございます。

まず、資料左の01、こちらが万博会場になります。名称としまして、ミライバスと称した10分間の動画の放映をメインに据える予定でございます。その下にありますように、そのシアターにつながる通路では、子どもたちが作ったコウノトリの折り紙でありますとか、ステンドグラスアート等を展示する予定です。その他、多目的エリアでのウィークイベントでありますとか、フェスティバル等を予定しております。

右の02では、県内の兵庫県立美術館というのがございますが、そちらにもサブ会場としまして、フィールドパビリオンの体験ができるゾーン等を用意する予定でございます。それから03ですけれども、尼崎の臨海部に設置いたします万博のパークアンドライド駐車場がございますが、その隣接地にひょうご楽市楽座と称するにぎわいの拠点を設けまして、これは開催期間中の週末に開催する予定でございますが、県産品のマルシェ等の多彩なイベントを行う予定でございます。

次の12ページでございますが、これは兵庫県の特徴として取り組んでおります、「ひょうごフィールドパビリオン」の予定について書かせていただいております。現在230プログラムを認定させていただいております、これまでいろいろなプロモーションや磨き上げ等の研修をして、引き続きこれをインフルエンサー等の活用によりまして、取組の紹介をしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○三日月広域連合長 続いて、奈良県さん。

○山下委員 奈良県は個別のブースはないのですが、資料の左側でございますとおり、関西パビリオンの多目的エリアを活用いたしまして、4月の中・下旬の2週間、市町村のPRブースを設けたり、観光・歴史・文化に関連する展示をしたり、奈良の食のPRをしたりといったことを考えております。右側ですが、EXPOアリーナでは、5月27日から29日までの3日間、メインステージやセンターステージで、こちらにも食を味わうブースとか、クラフトフェアとか、お茶席とか、そうしたものを設けたいと思っております。

それから、テーマ事業プロデューサーである、河瀬直美監督が奈良県出身ということでございまして、河瀬監督のお弟子さんが奈良県内で幾つか短い映画を撮られているのですが、その映画を上映したり、映画を撮られた若手監督と、地元関係者の対話型イベントを実施したりと、そういったことを予定しております。

以上です。

○三日月広域連合長 続いて、和歌山県さん。

○岸本委員 和歌山県ですけど、まずスタートの段階で和歌山ゾーンに期待する人はゼロだろうと、日本の人でも和歌山ゾーンを見に来る人はゼロだろうと、それから外国の人は「知らない」ということで、期待値がゼロなので、そうだとすると「何をやってもいいだろう」ということで、挑戦しようということにしまして、総合プロデューサーを吉本英樹さんという39歳の男性にやってもらうことにしまして、この方が

面白くて、東大の宇宙工学の修士を出た後、イギリスに渡ってロイヤル・カレッジ・オブ・アートでデザインの博士号を取った方で、ロンドンでデザイナーハウスをやっていて、ルイ・ヴィトンとかグッチのデザインをやっていた方なのですね。たまたま和歌山出身なので、全部を任せるということでやっています。テーマは「和歌山百景ー靈性の大地ー」、今年実は紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産登録で20周年なので、高野山とか熊野が象徴する靈性の大地、一番のポイントはコンセプトですけど、上質の詰まった和歌山、クオリティがある。これまで和歌山といえば近畿のおまけとか、関西のチベットとか僕らは言われてきたのです、吉本新喜劇で。この間の映画「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」では、未開の地と呼ばれて、違うのです、上質なのです。笑わないでくださいよ。それで映像コンテンツは、このトーテムがありますね、これは4メートルです。4メートルのトーテムで漆塗りです。和歌山の漆器で作っています。映像は、これもYusuke Murakamiさんといって、ロンドンベースでやっている世界的な映像作家ですけど、彼もロイヤル・カレッジ・オブ・アートのビジュアルコミュニケーション学科を出ている方ですが、彼に全部を任しています。この人は僕は知らなかったけど、海外では有名だそうです。この人の名前で来る人は見に来るのではないかと、外国人は。ステージコンテンツは、この広場みたいなところで、これは伝統芸能とかお祭りとかをやると、それから目玉はフードコンテンツでして、カウンターバーを造りまして、火が使えないものですから、和歌山のスイーツ、それからフルーツとか、それから梅酒とか日本酒を出す。これもプロデューサー、加藤峰子さんといまして、日本一のパティシエに選ばれた方で、アジアでも一番に選ばれている方で、イタリアの有名なお店でミシュランの星を取っているお店でパティシエをやっていた方で、彼女も僕は知りませんでしたけど、海外では有名だということで、一か八かやってみますので、ぜひお楽しみにしてください。

以上です。

○三日月広域連合長      かなりのPR力でございました。ありがとうございました。

鳥取県さん、どうぞ。

○亀井副委員　鳥取は15ページを御覧いただきますと、上のほうですけれども、鳥取県は導入する際にまんがを使って誘客を図ろうかなと思っています。「ゲゲゲの鬼太郎」の水木しげる先生とか、「名探偵コナン」の青山剛昌先生とか、「孤独のグルメ」の谷口ジロー先生、いずれも鳥取県出身なので、そのキャラクター像でまずブースの方にお迎えしたいなということでもあります。ブースに入りますと、下のほうですけれども、砂丘の砂を敷き詰めて、周りを鏡張りにすることによって、砂丘を広げると、そういった演出をするのと、名探偵コナンの虫眼鏡型のデバイスを使って、そこで鳥取の観光とかグルメとか工芸だとか、そういったものを探し出すと、それによって鳥取に来ていただく特典をそこでリンクさせようと思っています。そのリンク先で16ページの下の方ですけれども、「とっとリアル・パビリオン」ということで、そういった特典を持って鳥取に来ていただいて割引だとか使えますよということ、四角の3つ目にありますけれども、先ほどの兵庫県さんの「ひょうごフィールドパビリオン」とも連携して周遊ルートを設定したいなと考えています。ですので、皆さんにもぜひ来ていただきたいということでもありますし、上のほうはE X P Oホールだとか、関西パビリオンの多目的エリア、鳥取県の催事などをいろいろと準備をしていると、そういった状況であります。

以上です。

○三日月広域連合長　ありがとうございます。

徳島県さん、どうぞ。

○後藤田委員　徳島県でございますが、阿波おどり、動きのある発信ということで、まず自治体参加催事場で5月にさせていただきます。また、関西パビリオンの催事場におきましても、7月には各市町村の協力をいただきまして、ウォーターアクティビティを中心に家族連れで楽しんでもいただける体験イベントを開催させていただきます。テーマウィークにつきましても、文化共創ということで、こういった体験もさせてい



ただくと、いわゆるいろいろな場所を有効的に活用させていただきたいと思います。

次のページでございますが、私どもとしては県のいわゆるアイデンティティであるサステナブルアイランド、アイは藍染の「藍」でもあり、最先端のA Iも含めた造語でございます。まずはライフスタイルにつきましては、ナチュラル、そしてサステナブルということで、化学染料ではない自然染料である藍染めだとか、あと釘を1本も使わない指物、これは日本の匠にも、この前選ばれたわけでございますが、高級すし店はもうほぼその方の作品が出ているということで、海外の方にも親しみやすい、そして今日も先ほど申し上げました上勝町というところのゼロ・ウェイストタウン、ダボス会議にも呼ばれて発信しておりますが、そこでの木を使ったタオル、そしてまた先ほども申し上げましたが、万博で今度は木を使った白衣が採用されるということで、サステナブル、ナチュラルというものをしっかり発信していく。

またテクノロジーにおきましても、日亜化学さんのLED、または今回被災地でも活躍したW O T Aの水循環型シャワーシステム、いろいろな形での最先端の技術も発信できればありがたいと、このように思っております。いろいろな形での最先端の技術も発信できればありがたいと、このように思っております。

以上です。

○三日月広域連合長      ありがとうございました。

続いて福井県さん、どうぞ。

○福井県      福井県は、恐竜王国福井ということで、キラーコンテンツであります恐竜をモチーフにした時空の旅をテーマとして考えてございます。図にございますように、大きく3つのエリアで構成してございます。最初に1番目のところですが、こちらは福井で発見されました実物大の肉食恐竜「フクイラブトル」がお出迎えをさせていただきます。記念撮影に使っていただけますと幸いです。

続いて進みまして、2番目のところでございますが、こちらは発掘体験エリアとしまして、来場者の方が懐中電灯で照らしますと、化石が発掘されまして、発掘された

化石が全身骨格へ復元するような映像が流れますので、恐竜について学ぶことができる展示にさせていただこうと思っています。

それから最後に、3番目のところですけど、こちらは時空の旅エリアとしまして、5.5メートル×4メートルの4面全体に映像を投影いたしまして、福井で発見されたフクイラプトルが来場者に襲いかかる様子ですとか、フクイティタンの足音が響く迫力ある演出などを通して、没入感を出しまして、恐竜の繁栄、絶滅、そして未来までの2億年ほどの時空の旅を体感いただければなと思って、今企画を進めておるところでございます。

福井県は以上でございます。

○三日月広域連合長      ありがとうございます。

最後になりましたが、三重県さん、どうぞ。

○三重県      それでは、21ページを御覧ください。三重県ブースは、「日本のこころの原点～美し国みえへつづく時を超えた物語～」をテーマに、エンターテインメント型の空間演出で、三重の魅力をご体験いただけるようなブースとなっております。まず1つ目のブースである、時のトンネルからまずブースに入っていただき、今年先ほど他県様でお話ございました、世界遺産登録20周年を迎える熊野古道の遺跡から広がる1000年を超える歴史を体感できる幻想的なトンネルを進んでいただきます。そうすると次のゾーン、美し国みえ体験広場に入りまして、こちらでは体験型の展示を行うとともに、3つの特集テーマを設けて、期間限定の特別展示なども行います。特別展示は現時点で2点既に発表させていただいておりまして、1つ目が、1939年のニューヨーク万博に出展したミキモト真珠島所有の100万ドルの鐘とも言われております自由の鐘、それから2つ目ですけれども、実際に伊勢神宮の内宮正殿のかやぶき屋根の上に20年間配置されておりました鰹木を展示させていただきます。そのほか、残り4つの特別展示につきましては、今後順次発表をしてまいります。

最後のナビゲーションエリアでは、コンシェルジュを配置させていただきまして、

来場者一人ひとりの興味・関心に応じた本県の観光情報を提供いたします。

次のスライドをお願いします。催事を2つほど御紹介させていただきます。1つ目はE X P Oアリーナで、祭りをテーマにした催事を行うのと、あと関西パビリオンの多目的エリアで、三重県特有の食を中心としたリアル体験型イベントも予定させていただいております。スライドの右側ですが、他の自治体様も行われている校外学習支援や、機運の醸成の取組を進めております。機運醸成では、三重県内だけにとどまらず、イオンとの連携協定を活用し、全国各地のイオン店舗のほか、あと東京日本橋に本県への情報発信拠点「三重テラス」がございますので、そちらで開幕200日前に合わせて万博P Rブースを設置するなど、多くの地域で機運醸成に取り組んでおります。

以上をもちまして、三重県の取組紹介を終了いたします。ありがとうございました。

○三日月広域連合長      ありがとうございました。それぞれの府県の現在の準備状況等を御説明いただきましたけれども、最初にあった関西パビリオン全体の準備状況を含めて、何か御意見や御質問がございますか。

随分いろいろな準備が進んできて、いろいろなものが見えてきて楽しみにもなってきたところでございますが、今日は大阪府市さんのヘルスケアパビリオンの御紹介はございませんでしたので、また別途何かの機会に御紹介いただくようなことも考えていと思いますし、政令市さんもそれぞれお取組いただいていることごとなんかもあるかと思っておりますので、そういった御紹介、また、それぞれの府県でやっていることをどう連携させるのかということも、それぞれがそれぞれでやるのもいいのですが、せっかく関西のパビリオンでやっていますので、例えば世界遺産ということで、和歌山県さんと三重県さんがいろいろと連携されるようなことごとをどのように紹介するのかなんていうこともできるのかなと。

あと、関西パビリオン、万博エリアでやることと、それぞれの府県市でフィールドでやられる「とっとリアル」とか「ひょうごまるごとパビリオン」のことなんかもございましたので、そういった御紹介などもぜひ皆で力を合わせてP R、発信してい

たいなと思っておりますので、ぜひ今後、こういう機会準備が進む段階に応じて設けていきたいと思っておりますので、それぞれよろしく御協力のほどお願いいたします。

ほか、ないようでしたら、今後も引き続き万博の準備を進めていきますし、当然のことながら、経費の削減などについては努めていきたいと思っております。何より機運醸成を含めて、こういった情報を時々出していくことが、「行ってみたいな、関わってみたいな」と思ってもらえることにつながると思っておりますので、こういう機会を大事にしていきたいと思っております。

それでは、これでこのテーマは終わりとさせていただきます、福井県さんと三重県さんは、ここで御退席となります。どうもお疲れさまでした。引き続きよろしくお願いいたします。

それでは続いて、協議事項に入ります。「第3期関西観光・文化振興計画（仮称）中間案」につきまして、こちらは事務局から御説明をお願いいたします。

○広域観光・文化・スポーツ振興局      それでは資料2を御覧ください。「第3期関西観光・文化振興計画」中間案について、御説明いたします。現行の「第2期関西観光・文化振興計画」は、コロナ禍のインバウンド観光の回復時期も見通せない中で策定をしておりましたので、社会情勢の変化に合わせて、計画期間中であっても見直しを行うこととしておりました。この間、観光・文化分野ともコロナ禍の影響から急速に回復する一方で、外国人旅行者の一部地域への集中といった新たな課題も生じていることから、現行計画の終期、令和8年3月を待たずに速やかに計画を策定するものです。この第3期計画は、関西が一丸となって取り組む観光振興及び文化振興の戦略を示すものとして、来年4月から5年間を計画期間としております。

計画の内容につきましては、別紙1、概要版に沿って御説明をさせていただきます。ページ下の方にございます2番、主な課題を御覧ください。観光分野では、外国人旅行者の広域への分散化や、受入環境の整備、文化分野におきましては、文化の次世代への保存・継承・発展などの課題があると考えております。このような課題を踏まえ

まして、目指すべき将来像を、観光では、「持続可能な観光が実現する関西」、文化では、「新たな文化やビジネスモデルが創出され続ける関西」と考えており、これら2つの将来像を一言で表現できるキャッチフレーズを最終案に向けて検討することとしております。

この将来像実現のための4つの戦略を、次のページに掲げております。まず戦略1が、「文化資源等を活用した関西の魅力づくり」です。関西の多様な文化資源や自然、産業などを生かした関西各地の魅力づくりを進めてまいります。

戦略2が、「広域周遊観光の更なる推進」です。戦略1で取り組む関西各地の観光資源を活用し、テーマやストーリーでつなげた広域周遊観光を更に推進してまいります。

戦略3が、「文化と経済の好循環及び国際発信の推進」です。昨年7月に文化庁、関西広域連合、関経連等で共同宣言「文化の力で関西・日本を元気に」を発表しましたが、その視点に沿った取組を進めてまいります。

戦略4では、「持続可能な観光・文化振興のための推進体制等の強化」といたしまして、地域と調和した受入環境の整備や、人材の育成、関係団体との連携強化に取り組んでまいります。

計画の目標につきましては、課題の改善や将来像の実現を定量的に図れる資料を設定するよう、現在検討を進めております。

最後に、今後のスケジュールでございます。もう一度資料2に戻っていただきまして、5を御覧ください。10月12日の産業環境常任委員会を経て、パブリックコメントを実施した後、寄せられた御意見も踏まえて最終案を取りまとめ、翌年3月の連合議会で提案する予定としております。計画の詳細については、別紙2を御覧いただければと存じます。

説明は以上となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長      第2期の計画をコロナ禍のときに策定しました。その後急回

復、またインバウンドが一部地域に集中という課題も出ていますので、もう一回見直して、再テコを入れしていこうということだと思いますが、何か御意見や御質問はございますでしょうか。

永藤委員、どうぞ。

○永藤委員 1件意見としてお伝えさせていただきたいと思います。戦略2の広域観光周遊に関してです。関西の文化面での連携というのは、それぞれの府県市だけで行うのではなくて、府県の枠を越えて、視野を広げて考えることが重要だと思っています。これまでもこの委員会の場で私も発言をしていますし、広域の取組も行われている認識をしていますが、観光周遊となると、どうしても地理的なつながりをベースとして、近隣同士でルート設定をしているようなケースが多いように考えています。これを文化そのもののつながりに焦点を当てると、より魅力的なストーリーを構築できるのではないかと考えています。例えば、堺に関わることで言えば古墳であったり、戦国時代の歴史、茶の湯、鉄砲生産、これらは関西の多くの府県にも関わることだと考えています。関西というのは長い歴史の中で文化がつながりながら現代にも息づいているという極めて特徴的な地域でして、これらをストーリーでつなげることによって、関西の奥深さと広がりを感じてもらえることにもつながると思っています。関西広域連合の存在意義も更に高まると思っていますので、ぜひ御検討いただきたいと思います。

○三日月広域連合長 ありがとうございます。それ以外、せっくなので、ほかにもあれば。皆さんそれぞれの府県市からこの分野はたくさんあると思います。ぜひ事務的にもいろいろとやり取りをさせていただいておりますので、そういう中に、今永藤委員がおっしゃったような、とても大事なことだと思いますね、文化的なつながりを含めて。

ほかにはないようでしたら、西脇副広域連合長、何か。

○西脇副広域連合長 どうもありがとうございます。この中間案をこの委員会で出

すのはどうかとも思いましたが、パブリックコメントをしますので、幅広く御意見をいただいたほうがよいということと、裏面にあります、有識者会議である「関西観光・文化振興計画」検討委員会でも、かなり熱心に御審議をいただいておりますので、ここで原案を揉んでもらってということを考え、出させていただきました。今、連合長がおっしゃったように、事務的にも、この後の機会もありますので、ぜひともいろいろな御意見をいただきたいと思います。その中で永藤委員から御意見をいただきありがとうございます。私も永藤委員に言われて、古墳サミットに参加させていただきまして、京都の丹後地域に日本海側最大の前方後円墳があるということで、明らかに大和朝廷よりも早くに権力基盤があったのではないかというような証拠もあるということで、直接地続きではなくても、文化のつながりというのはいっぱいあります。鉄砲は和歌山の雑賀衆とか、京都や滋賀県の国友の鉄砲衆もあるし、お茶も典型的で、生産、茶器、茶の湯だけではなくいろいろなつながりがあります。振興計画では文化と観光が一緒になっていますが、文化と観光の親和性はどんどん高まっています。私もできる限り読みやすいように直したつもりではあるのですが、その辺りがうまく入るように工夫もしたいので、ぜひ御意見を賜りたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

○三日月広域連合長      では、こういう方向で議論、検討を進めていくということですので、皆積極的に御参画いただきますように要請しておきたいと思います。

続きまして、「令和7年度予算編成方針（案）」を議題とし、事務局からまず説明をお願いいたします。

○本部事務局      失礼いたします。資料3をお願いいたします。令和7年度予算編成方針案について、御協議をさせていただきたいと存じます。まず初めに、冒頭の前文の御説明をさせていただきます。令和7年度は、第5期の現在の広域計画の最終年度でございますので、取組方針に基づきまして、着実に取組を進めていくことを冒頭に申

し上げております。また今年度より、奈良県の全部参加が実現し、関西広域連合の体制が一層強化されたことから、予算編成におきましても、社会経済情勢の変化により生じる課題を積極的に解決する姿勢で臨むことを申し述べております。また引き続き、東京一極集中、少子高齢化の進展など、様々な社会情勢に対応して、柔軟に課題解決を図っていく必要があります、大規模災害の備え、SDGsの実現、脱炭素化、デジタル化、広域計画にも全て記載しているものですが、従前にも増して、分権型社会の実現等々、取組を進め、関西広域連合の存在意義を高めていくこととしております。

また、いよいよ来年4月に、大阪・関西万博が開幕をすることから、万博を契機として一層魅力ある関西を目指して取組を進めていくことについても、申し述べています。

一方で、前文の最終段落に記載していますけれども、物価高が続いている中、調達コスト増加の影響など、各構成府県市も厳しい状況下に置かれていることから、当初予算の編成に際しましては、記以下の方針に基づきまして、まず選択と集中を徹底して要求をお願いします。令和7年度からは、広域連携による行財政改革の推進の企画調整事務もスタートすることから、新たに関西全体での広域的な視点での行財政改革の必要性についても申し述べています。

続きまして、記以下の本文でございますが、1点目といたしまして、広域計画の最終年度ということで、目標の達成状況を点検いただき、必要な事業費を精査の上、計画達成に向けた予算要求をお願いしたいと考えております。また、分権を着実に推進していくため、国の事務権限の委譲につきましても、取組をお願いします。

続きまして、2ページ目をお願いします。万博の成功を目指して、関西パビリオンの運営ですとか、催事の実施等、関西の魅力を国内外に発信する取組を強力に進めていただきたいこと、また、続くワールドマスターズゲームズ2027関西の開催に向けて、機運醸成の取組を積極的に展開していただきたいことを書いてございます。

2点目の地方創生の推進につきましては、2に基づきまして、重点事業を積極的に



進めていただきたいということでございます。

3点目の議会等で得られた意見等の対応につきましては、昨年度同様、お願いをしてございます。

ページ中ほど、4点目でございます。奈良県の全部参加への対応でございますが、経過措置等の設定がございまして、事務の開始が令和7年4月以降になるものもございまして関係上、スケールメリットを十分生かして、必要最小限の要求とすることを書いてございます。

最後に5点目でございますが、選択と集中の徹底ということで、スクラップ・アンド・ビルドを行い、事業の効率化、スリム化の徹底をお願いしたいということでございます。

予算要求額の精査のところでございますが、以下①から⑩までに掲げている経費が、シーリングの対象外ですが、こちらの経費を除きまして、令和6年度の当初予算額を上限として要求をお願いしたいということを書いております。

今後の予算編成のスケジュールにつきましては、6に記載のとおりでございます。

以上、よろしくお願いをいたします。

○三日月広域連合長 若干事務的なことも含めて、確認をいただくように御提起いたしました。何か御意見・御質問はございますでしょうか。

防災省、防災庁の設置のことは、ここにはどこかに記載はありますか。もちろん広域防災で毎年取っているものがありますが、この辺りは後でまた、その他で皆さんから御意見が出るかもしれませんが、関西が従前から申し上げていて、時の政権がいろいろと取組を強化しようとしているのであれば、ちょっと予算にもしっかりと入れて、関西広域連合の構えも強化することが必要だと思いますので、この点を少しまた連合長と広域防災局で協議調整して差配したいと思いますので、この点も併せてよろしくございますか。

では、さよう決定させていただいた上で、この方針で予算編成、またスケジュール

で進めていきたいと思います。

続きまして、報告事項に入ります。「KANSAI脱炭素months」につきまして、広域環境保全局から御説明をお願いいたします。

○広域環境保全局 資料は4をお願いいたします。広域環境保全局から「KANSAI脱炭素monthsの実施」について、報告をさせていただきます。まず、1の概要でございますが、令和3年11月に出されました「関西脱炭素社会実現宣言」から3周年を迎えまして、また、半年後の大阪・関西万博を見据えまして、今年度初めて11月と12月を関西全体の脱炭素に関する取組の推進月間としまして、「KANSAI脱炭素months」と銘打って展開するとともに、メインイベントといたしまして、関西脱炭素フォーラム2024を開催することといたしました。

2の取組内容でございます。KANSAI脱炭素monthsの展開方法といたしまして、資料の中ほどにありますシンボルマークを作成いたしまして、期間中に関西圏で開催されるイベントのチラシ等に掲示いただくとともに、専用のホームページを開設いたしまして、イベント情報を掲載しまして一体的に発信するものでございます。

4の周知等でございますが、専用ホームページの公開は10月からと予定しております。現在本部事務局と各分野事務局へ関連イベントの紹介を行っているところでございます。ぜひ協力をお願いいたします。今後は企業や経済団体、各構成府県市などへ参画を募る予定でございます。

資料の一番下でございますが、メインイベントの内容でございます。11月12日にフォーラムをマイドームおおさかで開催いたします。昨年度は300名を超える参加者に集まっていいただきまして、関西の企業団体など、多様な主体が連携を図る場となりまして、今年度もしっかりとこれを盛り上げてまいりますので、皆様からはブースの出展など、御協力をいただけると幸いです。

次のページのチラシを参照いただければと思います。脱炭素社会実現宣言に向けましては、オール関西で取り組む必要がございます。引き続き御協力をお願いいたしま

す。

報告は以上でございます。

○三日月広域連合長 来年度の万博にもつながりますし、広域環境保全局から御説明がございましたが、広域産業振興局とも関連いたしますし、エネルギー検討会とも連動いたしますので、少しそういったところと連携して取組をしていくことといたします。

続きまして、「ものづくり作品展における高校生のデザインやアイデア募集」、「産業人材セミナーの開催」、「B i o J a p a n 2024の参加」につきまして、一括して広域産業振興局からお願いいたします。

○広域産業振興局 では、広域産業振興局から報告をさせていただきます。まず、資料5を御覧ください。「ものづくり作品展における高校生のデザインやアイデアの募集」についてです。この趣旨ですけれども、域内の高校生と、あと高等専門学校の生徒さんに自分自身で考えたデザインですとか、アイデアが製品化されるという体験を通じまして、ものづくりへの関心を高めていただくということ、域内のものづくり企業の技術力や魅力をPRするためということで、高校生などものづくり企業が共同で制作した製品を、これは最後のところ、2月23日のKANSAI感祭inOSAKAのプログラムの1つとして展示をするという形で実施をしたいと考えております。

開催概要ですけれども、ものづくり企業、6社から8社程度の企業に応募いただきまして、それぞれが提示するテーマに対しまして、高校生等から製品化につながるようなデザインやアイデアを募集いたします。この採用されたアイデアにつきまして、高校生とものづくり企業等とで共同でコラボ製品を作成していただくという形になりまして、完成した製品をKANSAI感祭inOSAKAにおいて展示をするという形です。テーマとしましては、こちらにありますように革製のキーケースのデザインですとか、屋外で使える和紙という、この使い方のアイデアなどという形で募集しております。募集期間が昨日の9月27日から始まっておりまして、これは制作期間の

関係で若干テーマによって締切日が異なりますが、11月の中・下旬までに募集をするという形を考えております。応募に関する手続ですとか、それぞれのものづくり企業のテーマ等の詳細につきましては、ホームページを御覧いただければと思います。関係府県市の皆様におかれましては、この募集についての周知、多くの学生に御応募いただきたいと考えておりますので、本募集の周知に御協力をお願いできればと考えております。

続きまして、「産業人材セミナーの開催」についてです。資料6を御覧ください。これは毎年広域産業振興局で中小企業の成長支援のためのセミナーを開催しておりますけれども、今年度は、この人材不足というのが企業で非常に恒常的な課題になっているということで、外国人の受入れをテーマとして開催をするということといたしました。その中で、在留資格をはじめとした各制度の概要等ということと、あと新制度としての育成就労制度が2027年度までの開始が予定されているということで、こちらについても御紹介をするということで予定をしております。受講の申込みにつきましては、9月27日から開始をしております、セミナー前日の10月28日まで受け付けておりますので、ぜひ御応募いただければと思います。また、後日のアーカイブ配信も予定をしております。

続きまして、資料の7です。「B i o J a p a n 2024の参加」についてであります。このイベントは、民間組織でありますB i o J a p a n組織委員会などによりまして、毎年主催をされております、バイオビジネスにおけるアジア最大級のパートナーリングイベントとされております。今年度は10月9日から11日まで、これは毎年横浜で行っていますが、3日間横浜で開催をされます。今年度につきましては、従来のマッチングアカウントの付与と、出展者プレゼンテーションということに加えまして、新たにブース出展を行います。その中で関西広域連合としての存在感を国内外からの来場者に向けて、より強力にアピールしていきたいと考えております。ブース内では、域内12構成府県市からそれぞれ選んでいただきました12の企業によります展示も行いま

す。なお、この機会を利用いたしまして、ブース内外で万博のPRも行う予定としております。また、この一番下に小さく書いてありますけども、協調事業といたしまして、「日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス2024」というものを開催いたします。これはBioJapan 2024に参加するために来日されましたヨーロッパのライフサイエンス企業と国内企業とが情報交換や個別面談を行えるという形のイベントでありまして、これを開催直前の10月7日に大阪市内で開催をいたします。昨年度は日本から45団体、ヨーロッパから80団体が参加をされています。世界をリードする地域の1つであります欧州ヨーロッパの企業や、研究機関、支援団体等と直接の交流を持つということは、関西をはじめとする国内企業にとりまして、海外展開の絶好の機会となりますので、多くの方々に御参加いただきたく、また域内の企業や研究機関等への御案内をぜひよろしくお願いしたいと思います。

広域産業振興局からは以上です。

○三日月広域連合長 関西の産業力強化につながる非常に重要なイベント等につきまして、御紹介がございました。何か御意見・御質問はございますか。それぞれの府県市の皆さんにお呼びかけいただいて、御参加いただければというふうに思います。

続きまして、「令和6年能登半島地震の復興支援に係る取組」につきまして、こちらは配布資料の中にも豪雨関連の資料提供もございますが、関連いたしますので、短くまず本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局 資料8を御覧ください。本年1月に発生いたしました令和6年能登半島地震の復興支援に係る取組について御報告いたします。経過といたしましては、本年5月の連合委員会において、能登半島地震で被害を受けられた伝統工芸を含む産業面や漁業をはじめとする食の面でも復興の後押しをするため、関西広域連合として連携して応援することについて御提案いただき、了承されたものでございます。

2の取組の共有といたしまして、各構成団体等の復興支援に資する取組、具体的な取組内容につきましては、次ページ以降に紹介しております、アンテナショップや物

産展、海外での石川県産品の紹介や販売、教育・医療・福祉等に関する相談窓口の設置、被災自治体へのふるさと納税の代理受付けなど、40を超える取組を取りまとめ、構成団体間で共有してまいります。

今後の対応といたしましては、連合ホームページに取組内容を掲載するとともに、多くの皆さんに参加していただきたい物産展等のイベントなどについては、連合のメールマガジンやSNSで発信し、参加を促してまいりたいと思います。なお、令和6年9月20日からの能登半島の大雨の対応として、情報収集をしながら、必要となる対応をしてまいりたいと考えており、先ほど御紹介いただきましたとおり、現時点の取組まとめ内容につきましては、本日資料配布をしております。

説明は以上でございます。

○三日月広域連合長　先だって永藤委員からこういった復興支援、ぜひそれぞれの府県市でできることがあるだろうということで、取組を始めたところでございますし、その取組内容を共有させていただきました。とはいえ、また9月に大雨がございましたので、そういったことも併せて被災地のニーズを酌み取りながら、最大限に寄り添いをしていきたいと思いますが、何か永藤委員でコメントはございますか。

○永藤委員　5月の委員会での提案に対しまして、迅速に取りまとめいただいたこと、感謝を申し上げます。今取りまとめをしている内容を、この先自治体間で協力することによって、更に効果を高められるものの中にはあるかと思いますので、引き続き皆様と連携しながら、また防災以外の対応も含めて、効果的な支援に努めたいと思っておりますので、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

○三日月広域連合長　ありがとうございました。

それでは引き続き、こういった被災地に寄り添いながら、同時に教訓を共有いたしまして、関西全体の防災力強化につなげていきたいと思っております。

続いて、「令和6年度北陸新幹線の建設促進に係る取組」について、本部事務局から御説明をお願いいたします。

○本部事務局      本部事務局です。9月17日に大阪市のナレッジシアターで開催しました、北陸新幹線整備促進シンポジウム in 関西2024の結果報告になります。当日は主催者挨拶の後、鉄道・運輸機構から北陸新幹線の概要説明がございました。トークセッションでは、関経連の蔭山山委員長、それから日本政策投資銀行北陸支店の飯田課長、それから同志社大学大学院の大串教授、3名の方に御登壇いただきまして、それぞれの立場から大阪までの全線開業の意義、それから新幹線の開業がもたらす効果、地域活性化につなげるためにすべきことなどのお話がありました。当日は会場が約260人、オンライン視聴で160人の約420人に参加いただきまして、大勢の方に参加いただきまして、有意義なシンポジウムを開催することができたと考えております。

説明は以上です。

○三日月広域連合長      この点はまず、北陸新幹線延伸に向けた課題克服、更には機運の醸成を図ると同時に、広域連合でも度々御提起いただいておりますが、新幹線ネットワークを四国につないでいくことや、山陰に伸ばしていくことなど、ぜひ国力、関西の力を高めるための取組等についても、ぜひこれからも力を合わせていきたいと思いますが、何か後藤田委員、ございますか。

○後藤田委員      御承知のとおり、国家事業として、九州ではT S M Cに3兆円のお金、そしてまた本州においては、リニア新幹線に3兆円の財政投融资、やはり我々関西の大きな今後の目玉として、中国地方、四国地方、そして関西を巻き込んだ大経済圏をつくる上でも、ぜひ今後の大きなテーマとして「中四国における新幹線」をこの関西広域連合の大きな議題にのせていただきたいと、このように思っております。四国の他の3県からも大きな要望が私のところに来ておりますので、よろしくお願いします。

○三日月広域連合長      ありがとうございます。更に連携した取組を進めてまいりたいと思います。

最後になりますが、資料10のところは万博開幕200日前のイベントを琵琶湖岸で開

催いたしましたという報告資料でございますので、御覧いただければと思います。

予定した議題は、以上でございます。それ以外に資料配布として資料を5点つけております。御覧いただければと思いますが、1点だけ、資料13にございますように、登録販売者試験につきましては、先般8月31日、台風の影響で延期になっておりまして、こちらが12月22日に域内9つの会場で開催されることになりますので、また、それぞれのところでの御周知方、よろしくお願いいたします。

以上でございますが、何かこの機会、皆様方で御意見・御発言、ございますでしょうか。

後藤田委員、どうぞ。

○後藤田委員　もう簡潔に申し上げます。冒頭、三日月連合長からお話があったとおり、政府与党としても大きな動きがあった、また今後大きな国政の選挙があると、こういう中で2つ。

1つはやはり防災に対する政府、今の与党、また今後も超党派において大事なテーマであると思います。この際、我々関西広域連合モデルではありませんが、防災庁の設置も含めた要請を政府与党も含め、野党超党派でしっかりと話をする機会があったらいいと思いますし、我々の広域連合委員会においても、中部方面総監部が広域的に2府19府県のいわゆる国土保全を含め、防災を担っていただいております。それこそ、その広域の中で我々と顔の見えるいろいろな議論を今後していくべきだと思っていますので、その機会もあればありがたいと思います。

もう一つ目は、今やもう、超党派で賃上げというものを言わない政党はございません。そういう意味で地方におきまして、賃上げ機運を高める上で、地方行政が賃上げを支援する際に、しっかりと国で支援をしていただくべく、改めて大きなテーマとして国に要請をしていただく流れをつくっていただければありがたいと思います。

○三日月広域連合長　ありがとうございます。いずれも大事なテーマでございますので、特に冒頭に申し上げたように、防災省、防災庁設置については、過去から強力



に申し上げていた関西広域連合として、新政権が誕生する、また、総選挙が行われるこの機に、今まで言ってきたことも含めて、強力に要請することなども考えていきたいと思いますので、また広域防災局と調整したいと思います。また皆さんにもお諮りしていきたいと思いますし、賃金、賃上げについても大変重要なテーマでございますので、それぞれの都道府県で調整や決定されている仕組みの在り方をどう広域で調整、ならしていくのかということなども含めて議論する場を設けていきたいと思います。また、陸自中部方面総監部などが能登半島地震を教訓に、また南海トラフ地震を想定しながら、どうやって広域でレスキューをしていくのかと、そのための訓練なども検討されているようでございますので、少しそういったことについて、顔の見える協議が行えるような、そういう場づくりも行っていきたいと思いますので、またよろしくご参画をお願いしたいと思います。

それ以外に何かございますでしょうか。

ないようでございましたら、少し遅れましたが、以上にて第170回の広域連合委員会を終了させていただきます。

ありがとうございました。

○本部事務局　それでは、引き続きまして、記者会見を行わせていただきます。

私が指名させていただきましたら、御所属とお名前を明らかにされてから御質問等をお願いしたいと思います。

質問がございましたら、挙手をお願いしたいと存じます。

どうぞ、お願いいたします。

○読売新聞　読売新聞の大槻と申します。よろしくお願いします。

万博の関西パビリオン、今日皆さんが進展を発表をされて、結構映像コンテンツに力が入っているなという印象を受けたのですけれども、改めて今日聞かれて、どのような魅力を感じたかというところで、三日月広域連合長、お願いできたらと思います。

○三日月広域連合長　お問いいただきましたように、それぞれの府県のブース、映

像や、また催事や、それぞれの府県での取組などと連動させながら御準備いただいているようでございますので、それらを更に見える化すると同時に、そういったことを発信しながら機運醸成につなげていきたいと思っております。

最後に総括したように、大阪府・市の取組、また政令市の取組、それぞれが連携した取組、そして府県域でなされるイベント等も御紹介できれば、更に広域周遊、ゲートウェイとしての機能も果たせると思いますので、そういったことに今後努めていきたいと思います。こういったものが見えれば、どんどん期待も膨らみますので、更に頑張っていきたいと思います。

○読売新聞　　滋賀県さん、世界初の空間演出ということで、キネティック・ライト・ビジョンというのを発表されていましたが、これはどんなものかというのわかりますか。

○三日月広域連合長　　私もまだ詳しく存じ上げないこともございますので、また改めてもうちょっと詳しくなってから御紹介したいと思います。

○読売新聞　　あとインバウンド、万博に来られた方を関西に周遊してもらおうというのはかなり大事なことがあると思いますけれども、改めて周遊につなげるためにどのような工夫を行っていきたいかというところで、お考えをお聞かせください。

○三日月広域連合長　　ゲートウェイとして、そして関西一円、そして日本全国ですけど、周遊していただくというのはとても大事なことだと思います。先ほども一部、例えば鳥取県さんですが、そこで出たもの、取ったものを来ていただいた方の特典にするような取組ですとか、それぞれのブースでそれぞれの府県の紹介をしながら、来ていただくようなことにつなげる展示ですとか、そういったことをなさいますので、ぜひそれらをより具現化していくと同時に、関西のWEBパビリオンなんかでも御紹介するような企画をつくっていきたいと思います。

西脇副広域連合長、何か、どうぞ。

○西脇副広域連合長　　では一言だけ補足いたしますと、関西広域連合が提唱して官

民で作りました E X P O 2 0 2 5 関西観光推進協議会があり、そこで構成府県市のコンテンツを収集し、それを周遊ルート化しております。これはパビリオンに来たというだけではなく、万博で日本に来られた方を広く関西、さらにはそれ以上の広域に周遊してもらうための取組として準備をしておりますので、それもぜひ活用させていただきたいと思っております。

○三日月広域連合長　　以上でございます。

○読売新聞　　ありがとうございます。

あと、防災省も伺いたいのですけれども、要請したいというところですが、今そういった国の防災対策って内閣府防災が担当していると思うのですが、新たに防災省ができることで、どういった点が期待されるかというところを改めて伺えたらと思います。

○三日月広域連合長　　これは常々関西広域連合が申し上げてきたのですが、事前防災から、そしていざ起こったときの復旧や復興、そういったものをよりテーマを超えて、そして国、府、県、市で連携しながらやれる体制というのは、やはり日頃の組織をつくっておくことで随分強化できるのではないかと考えておりますので、もちろん国、もしくは政権、総裁それぞれのお考えがありますので、その辺りのすり合わせというのは現実的にも行っていきたいと思いますが、早くから言ってきた、ずっと言ってきた関西としても、また、阪神・淡路大震災で復興してきた 3 0 年がたつ関西としても、ぜひこの辺りのことについては、国、政権とコミュニケーションを密に取っていききたいというふうに思いますし、できればそういう組織を作るのであれば、防災、復興、先進地域である関西が担いますので、ぜひ誘致をというようなことも積極的に申し上げていききたいと思います。

○事務局　　よろしいでしょうか。

では、これで終わります。

ありがとうございました。

閉会 17時30分